

や学区にあるガラス工場関連の素材での風鈴づくり、前年度にとれた大麦を使った麦茶づくり、ホタルの絵を配したうちわづくりを行うことが主な取組となっている。



◎根の谷川へアユの放流 全学年

大林地域の自然環境理解と保全を考える機会として大林連合自治会や太田川漁協のご協力を得て、アユの稚魚を全児童で根の谷川へ放流した。地元を流れる清流が豊かな恵みをもたらすことを願い、また、そのために環境を守ることを心に刻みながらの活動となった。

◎コンニャクイモの栽培ともちつき大会

自然環境の恵みである農作物の栽培として6年生は地域の方と共にコンニャク栽培からコンニャクづくりを行った。コンニャクイモからコンニャクをどのようにして作るのかを体験しながら知ると共に、ゲストティーチャーとしてお招きした地域の方々との交流を通して、地域で育つ喜びを感じる取り組みとなっている。



コンニャクづくりの後、1 月末に行われるもちつき大会では、大鍋で作られる豚汁の材料として6年生が作ったコンニャクを使い、全校児童と共に保護者、地域の方々にふるまわれる。児童が作ったコンニャク入りの豚汁は、地域の方々や保護者にたいへん好評である。

◎お話作りと読み聞かせ

※「ヤクソク」と題したホタルのお話

平成 27 年度に制作したオリジナルストーリーを現6年生が4年生時に大型紙芝居にしている。この作品を活用して、入学してきた1年生に読み聞かせを行った。大林小学校で、どんな取り組みをしているのかや、ホタルや自然を大切にしていかなければならないことを1年生に伝えることを継続的に行っている。最高学年となった6年生児童にとっても、制作した紙芝居を発表する場やこれからも継続してホタルの飼育に取り組む気持ちを高める機会とすることができた。



◎小川への幼虫の放流(3年生)

3年生が育てていたホタルの幼虫を、来年の夏に羽化することを願って地域の小川に放流をした。平成26年8月20日未明に広島市をおそった豪雨により大林地域の多くの谷川では土砂が流出し、それ以後、少しずつ回復してきているものの、生き物の住める環境は大きく損なわれている。ホタルの飛び交う故郷を願い、3年生が地域の人と選んだこの場所に幼虫を放流した。

